

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成20年3月13日(2008.3.13)

【公表番号】特表2006-516375(P2006-516375A)

【公表日】平成18年6月29日(2006.6.29)

【年通号数】公開・登録公報2006-025

【出願番号】特願2006-500826(P2006-500826)

【国際特許分類】

H 0 4 N      7/26      (2006.01)

【F I】

H 0 4 N      7/13      Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年1月22日(2008.1.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ビデオエンコーダでモード選択を実行する方法であつて、

一連の符号化モードから複数の符号化モードを用いて符号化するステップと、

前記複数の符号化モードから各符号化モードごとに歪値を計算するステップと、

前記複数の符号化モードから各符号化モードごとにビット・レート値を計算するステップと、

前記歪値、前記ビット・レート値、およびラグランジュ乗数を用いて前記複数の符号化モードから、各符号化モードごとにラグランジアン値を計算するステップと、

前記ラグランジアン値をクラスタ化するステップと、

モード0符号化方法が特定のクラスタ内にある場合に前記モード0符号化方法を選択することで前記ラグランジアン値を選択するステップとから構成される方法。

【請求項2】

前記歪値を計算するステップはアウトライアの影響を低減するための関数を使用するステップを有することを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記歪値を計算するステップは、Huber関数を使用するステップを有することを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記ビット・レート値を計算するステップは、動きベクトル式および変換係数一式を符号化するのに必要な総ビット数を計算するステップを有することを特徴する請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記ラグランジュ乗数は、量子化値の関数として緩やかに変化するラグランジュ乗数を有することを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記特定のクラスタは最小ラグランジアン値を生成する符号化モードを有することを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項7】

前記方法は、モード0符号化方法が特定のクラスタ内にない場合に最小ラグランジアン

値を生成する符号化モードを選択するステップをさらに有することを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項8】

前記モード0は直接モードであることを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項9】

前記モード0はスキップ・モードであることを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項10】

少なくとも1つのプロセッサで実行可能なモード選択を実行するためのコンピュータ・プログラムを格納するコンピュータ可読媒体であって、前記コンピュータ・プログラムは

、一連の符号化モードから複数の符号化モードを用いて符号化を行う命令と、

前記複数の符号化モードから各符号化モードごとに歪値を計算する命令と、

前記複数の符号化モードから各符号化モードごとにビット・レート値を計算する命令と

、前記歪値、前記ビット・レート値およびラグランジュ乗数を用いて、前記複数の符号化モードから各符号化モードごとにラグラジアン値を計算する命令と、

前記ラグラジアン値をクラスタ化する命令と、

モード0符号化方法が特定のクラスタ内にある場合に、前記モード0符号化方法を選択する命令とを有することを特徴とするコンピュータ可読媒体。

【請求項11】

前記歪値を計算する命令は、アウトライアの影響を低減するための関数を使用する一連の命令を有することを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項12】

前記歪値を計算する命令は、Huber関数を使用する一連の命令を有することを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項13】

前記ビット・レート値を計算する命令は、動きベクトル式および変換係数一式を符号化するのに必要な総ビット数を計算する命令を有することを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項14】

前記ラグランジュ乗数は、量子化値の関数として、緩やかに変化するラグランジュ乗数を有することを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項15】

前記特定のクラスタは最小ラグラジアン値を生成する符号化モードを有することを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項16】

前記コンピュータ・プログラムは、前記モード0符号化方法が、特定のクラスタ内にならない場合に、最小ラグラジアン値を生成する符号化モードを選択する命令をさらに有することを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項17】

前記モード0は直接モードであることを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項18】

前記モード0はスキップ・モードであることを特徴とする請求項10に記載のコンピュータ可読媒体。